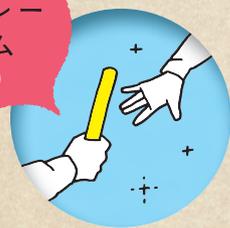


教育リレー  
コラム  
vol.10



## 自分の描く

## 目標や未来を支える

## 哲学や志を得るために

建築家として、より良い社会のデザインとは何かを研究する鉄矢悦朗さん。  
東京学芸大学で、地域連携や共同研究など、多数のプロジェクトに  
学生たちと共にとりくみながら感じることを、「寄稿いただきました」



鉄矢悦朗 さん  
(てつや・えつろう)

1964年生まれ。建築家。東京学芸大学  
教授。94年一級建築士事務所鉄矢悦朗  
建築事務所を開所。2002年から現職。  
NPO法人東京学芸大こども未来研究所  
理事長。「モノ・コト・バ」づくりを  
通じて、より良い社会のデザインにと  
りくんでいる。

時代は、教育の改革へ良い  
風向きへと、そして学校も  
変わりたいと思っている。

近年、ICTの進展とともに、  
学校、教育NPO、そして学生  
たちの教育を何とか変化させよ  
うとするとりくみの情報を目に  
することが多くなってきました。  
もちろん教育関係者には、ICT  
の力で教育の情報が多く届く  
ように仕掛けられています。し  
かし、言い換えれば教育の中心  
的立場の人々にも、教育の改革  
や良い風向きの情報が増えてい  
るとも言えます。さらに、教育  
実習先の校長先生や連携先の教  
育主事の先生たちと腹を割って  
話すと、「きっと学校はもっと面  
白くなる」と感じることも増え  
ました。学校も先生方も変わ  
りたいと思っていますのです。

自分の思いを伝える面接を  
はじめよう

昨年度の卒業生のY君。教員  
採用試験に落ちました。二次の  
面接で、「君は校長の言うこと  
をきくか（履行するか）」との  
質問に対して「内容、そして時  
と場合です」と答えたのが原因  
ではないかと反省をしていまし  
た。Y君曰く「教採の面接は考  
えている教育のことや、言いた  
いことをいう面接ではないんで  
す」とのことでした。暗く落ち  
込んでいたY君を見ていたら、  
「いいじゃないか、君は自分の  
思いを伝えて、そのうえでその  
学校は、君を不採用にしたのだ  
から、合わなかったのだよ。他  
にも学校があるから、自分の思  
いをしっかりと相手に伝えて来  
い。自分に嘘をつかず先生に

なれたらうれしいだろ」と彼を  
応援していました。数日後、「面  
接で言いたいことも言えまし  
た」と連絡をくれました。Y君  
はこの春からその学校の専任教  
員として働き始めました。

特別な例かもしれませんが、  
Y君のように自分らしさを受け  
入れてくれる学校に出会うこと  
から、これからの学校として、  
より良い教育環境の変化を受け  
入れていけるのだと思います。

目標がしっかりしていれば  
そこに向かう別手段はある

2年前、教育プロジェクトの  
リーダー学生が、公立学校の教  
員になりました。しかし、昨年  
度で退職し別の教育機関で働き  
始めました。彼女の目標は今も  
変わりません。そこに向かう手  
段として選んだ職が合わなけれ

ば、違う手段に変えて目標や未  
来に向かえば良いのです。

今、何をすべきか

私たちは今ある社会がより良  
くなるために工夫を惜しみませ  
ん。社会をデザインする一員な  
のです。教職（教育職員）とな  
ることも社会をデザインする手  
段の一つです。教職か、その他  
の職業か、あるいは親という立  
場なのかなどの違いはあります  
が、皆、より良い社会を望んで  
います。本当に大切なのは、そ  
の手段の先に描く目標や未来で  
す。学生のときは多くのチャレ  
ンジと経験を重ね、人と話し、  
自分の目標や未来を描こうと奮  
闘してください。奮闘の先に、  
自分の描く目標や未来をしっか  
りと支えることになる哲学や志  
が生まれるはずですよ。